

 **アウトリーチ(訪問支援)と重層的な支援ネットワークを
活用した多面的アプローチ**

～社会的孤立・排除を生まない総合的な支援体制の確立に向けて～

Five Different Positionsに基づくプログラムメニューの実例

**アウトリーチと重層的な支援ネットワークを
活用した多面的アプローチが若年無業者の
社会参加・職業的自立を効果的に促進**

～アセスメント指標「Five Different Positions」に基づく多面的アプローチの各種プログラム～

アウトリーチ現場ではプロセス全般を見通した包括的対応が求められる ～孤立する子ども・若者へのアプローチには従来の家庭訪問とは異なる専門性が必要～

相談室対応とは異なるアウトリーチ現場の特殊性

① 困難事例が多い

「最後の手段」としての利用
複数の相談支援の失敗を経験
孤立状態の長期化による問題の深刻化、複合化
トラウマなどによるメンタルヘルスの問題・・・

② 相談意欲が低い

対人関係の苦手意識
警戒心、恐怖心、無力感、絶望感
学校不信、社会不信、人間不信
認知の歪み・・・

③ 関係性が複雑

本人との関係性の構築の難しさ
親や兄弟、友人など複数の人間との接触
家族間の関係などへの配慮
限られた人間関係の中での依存・・・

④ 危険性が高い

追い詰められた心理状態
家庭内問題に関わるリスク
自殺企図や暴力など自傷他害のリスク
家族や第三者との接触による危険性・・・

思春期の子ども・若者対応で配慮すべき特性

- ・ 第2次性徴で、**心身ともに著しい変化**を遂げる
- ・ 自意識や感受性が強く**環境からの影響を受け易い**
- ・ 自己確立の過程で、**心身ともに不安定**な状態に陥り易い
- ・ 成人への過渡期にあり、**考えと行動に矛盾を抱えやすい**
- ・ 反抗期のため親や教師、大人に**反抗的**になりがち
- ・ ルールなどに束縛を感じ、**自由を求める**傾向
- ・ 友達や恋人など**第三者との関係が大きな影響力**を持つ



従来型の家庭訪問の問題点

単一機関や単一分野の知見に偏った支援ノウハウ

個人の資質や経験、美談や根性論に基づいた訪問活動

決定的失敗や2次被害を生む「危険性」

対人関係の改善には価値観が理解できる世代と真意を把握できる専門家の関与が必要
 ～適応訓練を行うのはコミュニケーションパターンが合わせ易い「お兄さん」「お姉さん」的支援員～

**専門の相談員が常駐し支援する
「コネクションズ・スペース」**

心の居場所＋社会適応訓練の場としての機能

世代の近い相談員(20代、30代)の配置

対人関係・コミュニケーションのトレーニング

「歪められた認知の修正」「必要経験の補充」

個々人の状態に応じた中間的なトレーニングメニューの提供



ネガティブな言動の背景にある真意を察しながら寄り添う姿勢が必要

「会いたくない」「話したくない」「行きたくない」

「話が合わないから」「分かってもらえないから」「認めてもらえないから」「仲良くなれないから」「嫌われるだけだから」...

➡ (条件が整えば)「会いたい」「話したい」「行きたい」

背景によっては意味が180度が変わることも!

「殺す」「死ぬ」

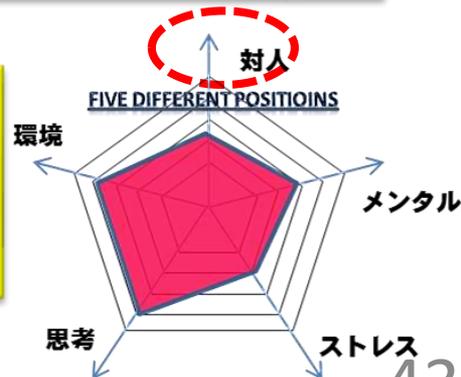
「そこまで思うくらいに『辛い』思い」...

➡ その『辛さ』を解消する手伝いならできる!

言葉の拾い方で関わりの展開が変わってくる!

**『真意』は表面的な言動だけでは
安易に判断できない**

**「お兄さん」「お姉さん」
世代の専門職による
「ナナメの関係性」を
活用した相談支援**

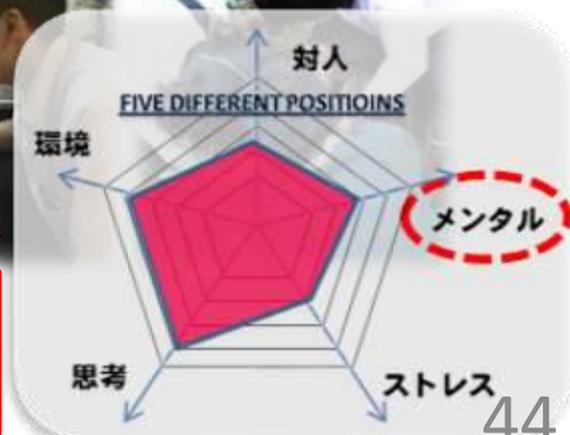




アウトリーチによる生活場面の共有は相談室では見えない実態の把握につながる

～生活場面の共有によって得られる精度の高いアセスメント情報を介した専門家との連携～

支援・治療には生活場面で得られる影響要因や日々変化する症状等についての情報は有用性が高い



当事者が伝えられない思いや状態を訪問支援員が客観性を持って医師等の専門家に代弁する



ストレス耐性に着眼した中間的なトレーニングメニューの実例

～社会的孤立からの脱却、個別対応から小集団活動、集団活動、社会参加への段階的移行～

① オーダーメイドの個別プログラム 本人が「楽しい」と思える興味関心に沿った内容(最小限)



興味関心、趣味、性格、相性等を総合的に判断しマッチング
安全と安心が確保された小集団の形成

② 集団活動への段階的移行による適応性の向上 支援コーディネーターによる実践的なSST「楽しみながら」の原則

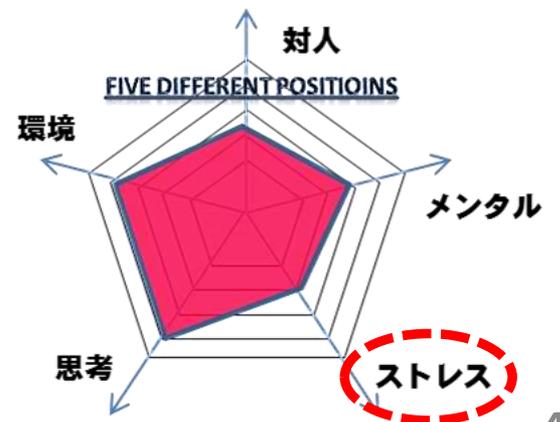


「移行」「分散」「離脱化」による「つながり」の強化
依存を生まない展開による人間関係の適正化

③ 「興味関心」から「実用的プログラムへの転換」 復学・社会参加等の効果的促進



社会貢献活動等を通じた就労体験事業
自己有用感の向上等より効果的な自立支援





「認知行動療法」と「職親制度」を活用したジョブトレ
 ～認知的な偏りを修正するための「必要経験」にターゲットを絞りプログラム化する！～

配慮のない体験は苦手意識やトラウマを強めるリスクが高い
「最初から答えを与えても効果は薄い！」「経験を伴いながら段階的に変化を！」

<p>農業・畜産業・漁業</p>	<p>製造業</p>	<p>販売・配達</p>	<p>映像・造園・その他</p>
<p>宿泊・観光業</p>	<p>S.S.Fと共に若者達を支える 佐賀県の理解ある事業主「職親」</p>	<p>飲食業</p>	<p>医療</p>
<p>教育・専門学校</p>		<p>卸売・小売業</p>	<p>伝統工芸</p>
<p>社会貢献</p>	<p>H18年の運用開始以来 170ヶ所を超える多様な分野の事業所等が協力 ※図は主な受け入れ先を例示、一部イメージ写真有</p>	<p>建築・建設業</p>	<p>介護・福祉</p>
<p>サービス業</p>			



職業に対する偏見や不合理な職業観の修正⇒「すべての仕事に価値がある」
 労働人口の約49%がAI等に代替される時代⇒「仕事に価値を見出す力が重要」

生活困窮者自立支援法に係るモデル事業の段階から実施する就労準備支援事業

～若年無業者の就労支援で高い実績を収めている「選択型」「オーダーメイド型」の支援メニューの活用～

【佐賀市】「選択型」「オーダーメイド型」の就労準備支援事業の実施

- 佐賀市は、自立相談支援事業、就労準備支援事業、就労訓練事業の推進等のモデル事業を一括してNPO法人NPOスチューデント・サポート・フェイスに委託。
- NPOスチューデント・サポート・フェイスは、これまで地域若者サポートステーション事業を実施してきた経験を活かし、対象者の状態や興味・関心に沿った「選択型」「オーダーメイド型」の就労準備支援事業を実施。
- 支援の質的・量的調整を柔軟に行うことができるプログラムとすることで、多様な状態の対象者を受け入れを可能とするとともに、効果的な支援を実施。

土・日・祝日を除き、ほぼ毎日複数のメニューを用意し、その中から個々の利用者のニーズに合ったものを選択・実施。 ※説明はH26年度のもの

支援員は認知行動療法の応用的活用を意識

【支援内容】

- (1) 初期段階の支援(生活自立支援訓練)
 - ・ 通所による生活習慣などの改善、臨床心理士との面談、定期面談による目標設定と振り返り等によって、健康・生活管理に関する意識の醸成を図る。
- (2) 第2段階の支援(社会自立支援訓練)
 - ・ 就労の前段階として、コミュニケーション実習、自己分析実習、ボランティア活動への参加等を通じて、社会参加能力の取得を目指す。
- (3) 最終段階の支援(就労自立支援訓練)
 - ・ 面接訓練、ビジネスマナー訓練、パソコン研修、キャリアコンサルタントによる相談支援、職場体験、ハローワーク等の利用に関する助言等を行うことで、就労に向けた自覚を喚起させ、求職活動に向けた準備を目指す。

【支援期間】

初期・第2段階から開始→1年以内、最終段階から開始→6か月以内

【利用料・費用】

無料。ただし、食事代・交通費等の実費を徴収する場合あり。

【災害時の補償】

来所中またはスタッフと移動中・作業中の事故や怪我等による損害賠償金・見舞金等(通院1万円～、入院2万円～、死亡50万円)に加入

NPO活動総合保険(第三者賠償は2億円まで)に加入

【工賃】

基本的に支払いなし(内職などで工賃が発生する場合は事前に説明)。

※出典:厚労省モデル事業推進検討会資料1(一部改訂)

佐賀市生活自立支援センター

10月スケジュール予定

月	火	水	木	金	土	日
★ボランティア ◎体験活動 ◎セミナー ◎その他	◎内職 13時～15時半 ※火曜オフ 14時～15時 ◎若者UP 16時～18時	◎職業体験(午前) ◎職業体験(午後) 10時～13時 ◎進学資金 16時～18時	◎職業体験(午前) ◎職業体験(午後) 10時～13時 ◎進学資金 16時～18時	◎返還図書 8時20分～ ◎商店街清掃 16時～	休憩	休憩
◎若者UP 13時～15時 ◎進学資金 16時～18時	◎パソコンセミナー 14時～16時 ◎若者UP 14時～16時 ◎若者UP 16時～18時 ◎若者UP 16時～18時	◎内職 13時～15時半 ◎若者UP 16時～18時	◎職業体験(午前) ◎職業体験(午後) 10時～13時 ◎進学資金 16時～18時	◎職業体験(午前) ◎職業体験(午後) 10時～13時 ◎進学資金 16時～18時	◎職業体験(午前) ◎職業体験(午後) 10時～13時 ◎進学資金 16時～18時	◎職業体験(午前) ◎職業体験(午後) 10時～13時 ◎進学資金 16時～18時
◎若者UP 13時～15時 ◎進学資金 16時～18時	◎パソコンセミナー 14時～16時 ◎若者UP 14時～16時 ◎若者UP 16時～18時	◎内職 13時～15時半 ◎若者UP 16時～18時	◎職業体験(午前) ◎職業体験(午後) 10時～13時 ◎進学資金 16時～18時	◎職業体験(午前) ◎職業体験(午後) 10時～13時 ◎進学資金 16時～18時	◎職業体験(午前) ◎職業体験(午後) 10時～13時 ◎進学資金 16時～18時	◎職業体験(午前) ◎職業体験(午後) 10時～13時 ◎進学資金 16時～18時
◎若者UP 13時～15時 ◎進学資金 16時～18時	◎パソコンセミナー 14時～16時 ◎若者UP 14時～16時 ◎若者UP 16時～18時	◎内職 13時～15時半 ◎若者UP 16時～18時	◎職業体験(午前) ◎職業体験(午後) 10時～13時 ◎進学資金 16時～18時	◎職業体験(午前) ◎職業体験(午後) 10時～13時 ◎進学資金 16時～18時	◎職業体験(午前) ◎職業体験(午後) 10時～13時 ◎進学資金 16時～18時	◎職業体験(午前) ◎職業体験(午後) 10時～13時 ◎進学資金 16時～18時

【学習会】
高認(高校卒業程度認定試験)の勉強ができます!
その他にも、小・中・高校の勉強の復習や資格取得の勉強も大丈夫です!

季節によって
緑化活動も
あります!

★今月の料理セミナー★
10月17日(金)11時～14時
場所:佐賀市生活自立支援センター(調理室)
メニュー:リクエスト募集中!
※メニューは変更する場合があります。

＜ニーズ＞
※連携機関
★コミュニケーション
★パソコンスキル向上
★ビジネスマナー

若者UPセミナー開催!
◎Word/Excel/PowerPoint等
※Word/Excel/PowerPoint等
※Word/Excel/PowerPoint等
※Word/Excel/PowerPoint等

「佐賀市生活自立支援センター」は、
特定非営利活動法人NPOスチューデント・サポート・フェイス
が「佐賀市」から委託し運営しています。
〒840-0826佐賀市白旗下2-707A-00Aビル1階
TEL:0952-90-6208 FAX:0952-62-4248
開館時間:11時～18時(月曜日～金曜日)
休館日:土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始等



生活困窮者自立支援法に係るモデル事業の段階から実施する就労準備支援事業

～当事者の自尊心、自己肯定感を効果的に高めるための社会貢献活動を中心としたプログラムの組み立て～

車椅子清掃ボランティア

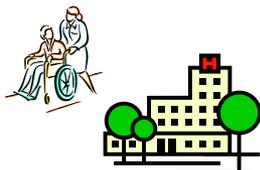
病院に出向き患者さんが使われている車椅子を清掃するボランティアです。

【日時】第2木曜日 14:00～(1,2時間程度)
【場所】佐賀リハビリテーション病院(集合場所:サボステ)
【方法】
 ・車椅子清掃マニュアルを参考にサボステスタッフ、ボランティアに参加すると協力して行います。
 ・A,Bの2班に分かれ活動を行います。
 ・清掃を行う場所は主に「1階ロビー部分、2、3階病棟」になります。

【目的】
 ・ボランティア参加者と共に協力し、学び合いながら活動する
 ・様々な人々と出会い、ふれあい、つながりをもち社会の一員としての実感を持つ。
 ・目の前の課題に対し、何が必要なのか、改善のためにどうすればよいのかを考える
 ・ボランティア活動を通して、多様な価値観を認識する。

約束事項

- ・病院という場にふさわしい身なりをしましょう
- ・様々な人がいる場所なので、きちんと挨拶しましょう。
- ・一人ひとり、責任をもって活動しましょう。
- ・きつときは無理をせず、他の人と協力しながら活動しましょう。



各自準備するもの

- ・タオル(汗拭き等)
- ・飲み物
- ・活動しやすい服装(ただし病院であることを考慮する)



花づくりボランティア

さがユースフルボランティア

種から花を育てて、その後も水やりや除草など花のお世話をして地域の美化と活性化に協力する活動です。

- 活動の目的**
- ・地域の美化、活性化
 - ・花を育てることの難しさ、楽しさを知る
 - ・活動の継続性や向上性
 - ・公共性や地域に向けた場所での活動
 - ・活動を通して、メンバーとの交流を回る など



【活動の内容】
 ・飲み水
 → 表面のウッドチップをどけて、土の中(浅く)に植えます
 ※春・夏・秋・冬で、季節に適した花の種を植えて育てます
 ・水やり
 → すぐ近くの小川から水を汲んで、水をやります
 ・除草
 → 雑草は花の成長の邪魔をするので、定期的に取り除きます

【必要なもの】
 ・タオル、飲み物
 ・花の種や筆、シャベルなどの道具はスタッフが用意します
 ※暑くなってくるので、タオル・帽子・飲み物は各自持参して下さい
 ※また、屋外での活動なので、動きやすい服装が良いでしょう

【活動の流れ】
 (集合 → 説明 → 活動 → 振り返り)
 ・その日の活動内容の詳細を説明する
 ・筆、シャベルなど道具を配り、活動の時間と場所を説明して移動
 ・花づくり活動
 ・活動終了後、スタッフと参加者全員で振り返りを行う

【活動時間】
 ・月1回
 ・第3火曜日(10:30~12:00)

【活動場所】
 ・サボステの近くの公園



『花づくり』を通して、色々な変化が期待できます！



求人(タウンワーク)更新ボランティア

さがユースフルボランティア

タウンワークなどの求人情報誌を、色々な人が見やすいように『切り貼り』『書き込み』『掲示』を行うボランティアです。

- 活動の目的**
- ・他の人たちも見る、ということを考えて作成する
 - ・求人情報に関心を持ち、色々な仕事を知る
 - ・求人情報を通して、自分が興味のある仕事、職種に気づくことが出来る など



【活動の内容】
 ・用意された求人情報を決められた大きさに切る
 ・切り終わった求人情報を決められた場所に貼る
 ・仕事内容や勤務地などの大事なポイントを見やすいように書き込む
 ※ただ何となく活動するのではなく、興味のある仕事のことなどについて話し合いながら活動しましょう

【活動の流れ】
 (集合 → 説明 → 活動 → 振り返り)
 ・はさみ、のり、ペンなどの道具を配り
 ・活動内容の詳細とテーマ、活動時間の説明を行う
 ・求人情報更新活動
 ・活動終了後、スタッフと参加者全員で振り返りを行う

【活動時間】
 ・週1回
 ・毎週火曜日(13:00~14:30)

【活動場所】
 ・サボステ内(コネクションズ・スペース)

【必要なもの】
 ・特に必要なものはありません
 ・求人情報やはさみ、のり、ペンなどの道具はスタッフが用意します

活動中は自由に話し合いながらやりましょう

「へえ、こんなアルバイトもあるんだ」

「他の人達にとって役に立ちます」

「新しい求人情報だ！応募してみようかな？」

例えば、このような感じ...



私はコンビニかスーパーのアルバイトから始めてみようかな？



ごみ拾いボランティア

さがユースフルボランティア

道路や公園、河川などにはたくさんのごみがポイ捨てされています。空き缶やペットボトル、タバコの吸い殻などのごみを拾って、佐賀の街をきれいにしようという活動です。

- 活動の目的**
- ・その場をきれいに保ち、自分たちや周辺住民、来訪者が気持ちよく過ごせる状態にする
 - ・リサイクル可能な資源を回収する
 - ・参加者自身やごみ拾いを見た人たちのマナー啓発
 - ・ごみのない環境を保つことでごみを捨てにくい状況を創出する
 - ・動物や河川などの自然をごみの汚染から守る
 - ・活動を通して交流を回る など



【活動の内容】
 ・空き缶やタバコの吸い殻など、ポイ捨てされているごみを拾って回収する
 ・回収したごみを、リサイクルが可能なものと、そうでないものとで分別する

【用意するもの】
 ・特に活動に必要な道具はありません
 ・筆や火ばさみ、ごみ袋はスタッフが用意します

※暑くなってくるので、タオル・帽子・飲み物は各自持参して下さい
 ※また、屋外での活動なので、動きやすい服装が良いでしょう

【活動の流れ】
 (集合 → 説明 → 活動 → 振り返り)
 ・筆、ごみ袋、火ばさみを配り、ごみ拾い実施の時間と活動範囲、ごみの分別の方法の説明を行う
 ・ごみ拾い活動
 ・資源ごみを分別して回収する
 ・活動終了後、スタッフと参加者全員で振り返りを行う

【活動時間】
 ・月1回
 ・第1火曜日

【活動場所】
 ・サボステ周辺

『ごみ拾い』には色々な効果があります！

例えばこのようなことが...



「最近ポイ捨てが多くなっているみたいですね...」

「それじゃあ、まだまだごみ拾いも頑張らなくちゃいけません」

「あつ...ごみ拾いってできる！でもこれからは頑張らないといけないよ...」

「思考」

「ストレス」

「認知行動療法」と「職親制度」を活用した長期の就労体験(チャレンジ体験)

～専門スタッフの随行支援によるケア付きの就労体験にも引きこもり等の支援で培ったノウハウが機能～

就労体験。

その「経験」が「自信」につながる

- ・働きたいけど、1歩が踏み出せない。
- ・何から始めればいいのか分からない。
- ・いきなり働く自信がない。
- ・どんな職種を選べばいいのか分からない。
- ・就職活動がうまくいかない。
- ・仕事が長続きしない。
- ・職場での人間関係がうまくいかない。



コーディネーターと一緒に「働く経験」をしてみませんか？

対象

- ・おおむね15～39歳の若者
- ※ご参加の際は、こちらが用意する申込書をご提出していただく必要があります
- ※必要であれば、2回まで体験を受けることができます

体験内容

- ・協力事業主の元で簡単な事務作業や軽作業等ができます
- ・1人1人のペースに合わせて、少しずつステップアップさせていきます
- ※体験開始から一定期間は支援スタッフが同行しサポート致します
- ※体験場所や体験内容の詳細は企業先と協議して決めていきます

実施期間

- ・短期コース (2～3日、1週間程度)
- ・長期コース (3週間程度)
- ※期間や時間の詳細は、企業先と協議し打ち合わせをします

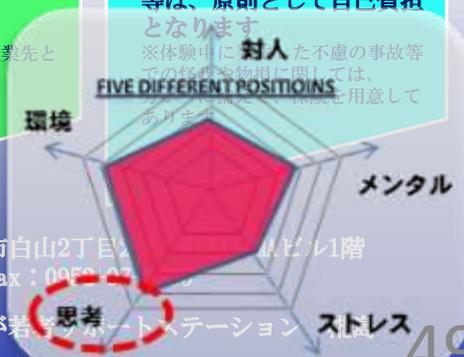
諸費用

- ・施設利用費や参加費等は無料ですが、交通費や食事代等は、原則として自己負担となります
- ※体験中に**対人**た不慮の事故等での怪傷や物品に関しては、**FIVE DIFFERENT POSITIONS**の経験や物品に関しては、**環境**と**メンタル**の両方とも考慮してあります

興味がある方や、聞きたいことがある方は、「さが若者サポートステーション」まで。お気軽にご連絡ください♪

〒840-0826 佐賀県佐賀市白山2丁目2番11号 1階
tel: 0952-28-4323 fax: 0952-28-4324

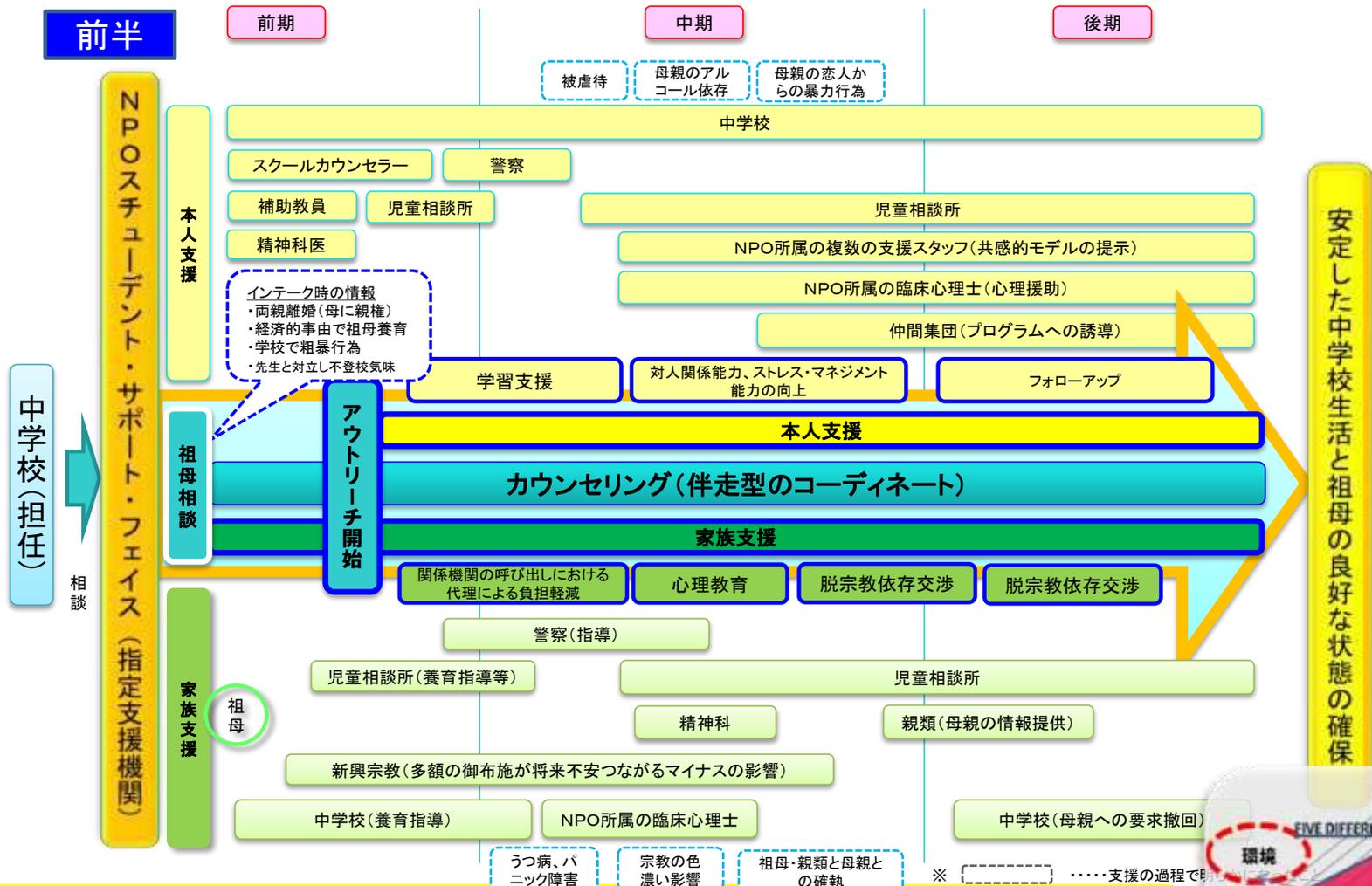
担当 さが若者サポートステーション ストレス



アウトリーチを用いたネットワーク活用型の支援によって多面的に支援する①-1

事例：母子家庭の男子(14歳)
 相談時の家族構成：
 祖母(70代)、本人⇒後で母親と同居

小学校の頃から学内外で暴力行為等を繰り返す。中学校では医療機関を含めチーム対応しているが悪化傾向。祖母による養育では限界。原因は本人性格や障害も(担任)。



相談室で得られる情報と生活場面で得られる情報には差異がある

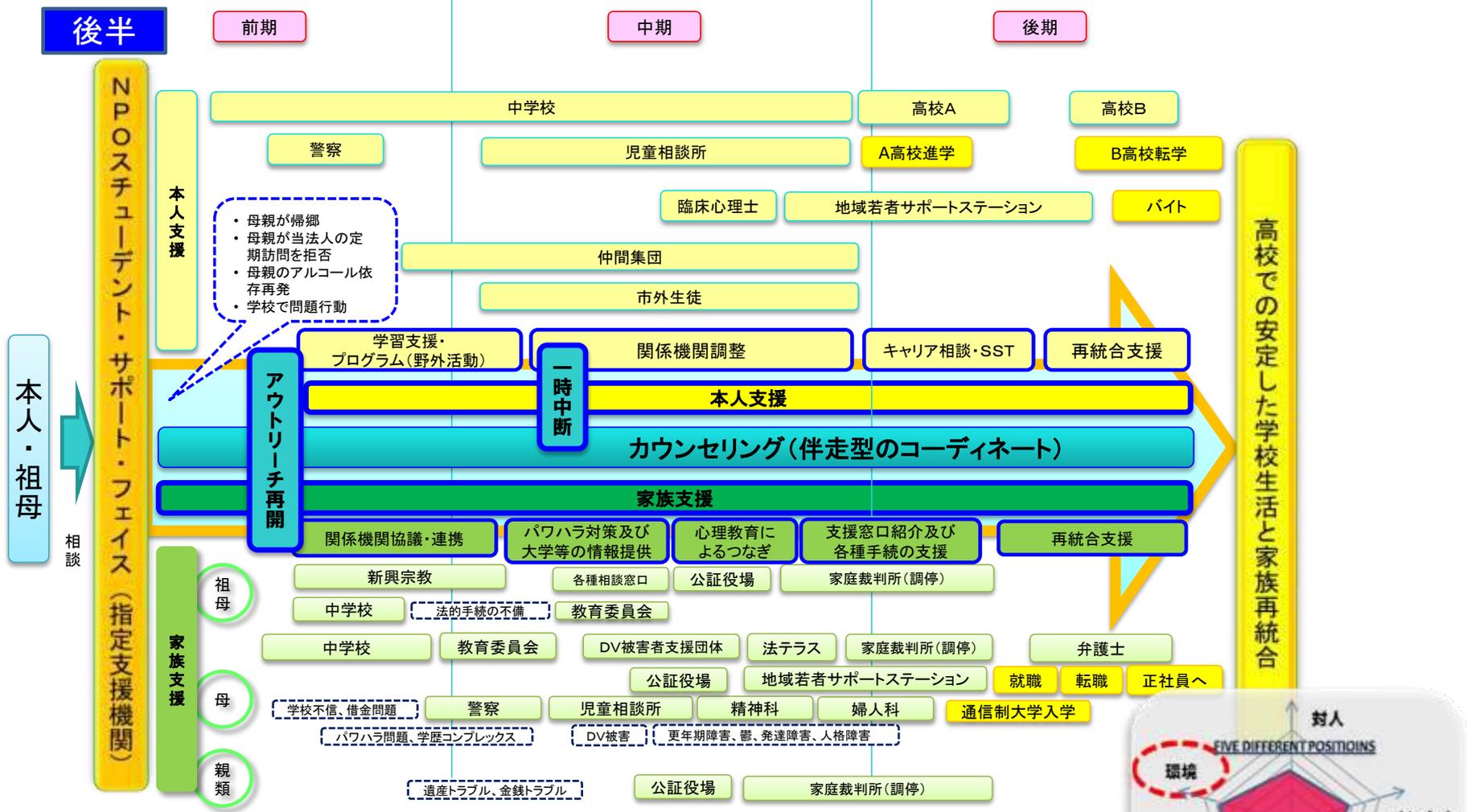
逸脱行動の背景に生育環境の問題を抱えるケースもあることに留意



アウトリーチを用いたネットワーク活用型の支援によって多面的に支援する①-2

事例：母子家庭の男子(14歳)
 相談時の家族構成：
 祖母(70代)、本人⇒後で母親と同居

小学校の頃から学内外で暴力行為等を繰り返す。中学校では医療機関を含めチーム対応しているが悪化傾向。祖母による養育では限界。原因は本人性格や障害も(担任)。



※本事例の詳細については、内閣府『困難を有する子ども・若者及び家族に対する支援の在り方に関する調査研究報告書』第2章に掲載。

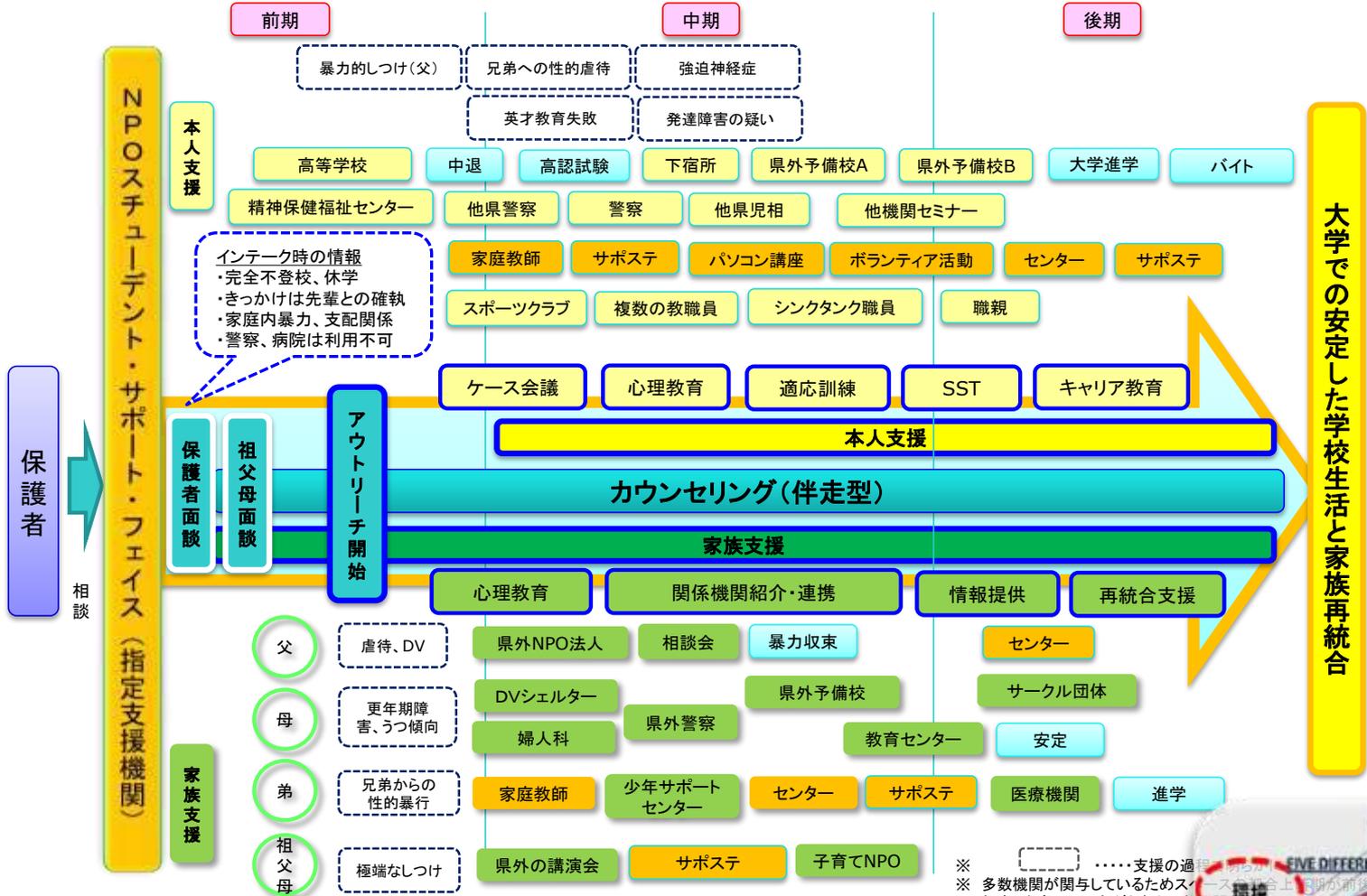




アウトリーチを用いたネットワーク活用型の支援によって多面的に支援する②

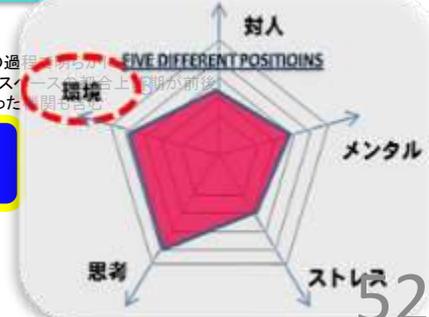
事例：ひきこもり、重度の家庭内暴力
相談時の家族構成：
祖父母、両親、本人(19歳)、弟

高校休学し約2年間ひきこもり状態。教職員やカウンセラー関与するが、家庭内暴力が深刻化。事件や家族崩壊する前に暴力を止めて欲しい(両親)。



複数の問題に対して同時並行的にアプローチできる総合的な支援機能が必要

適切な「見立て」に応じて支援全体の質を調整できる「伴走型の支援」が有効

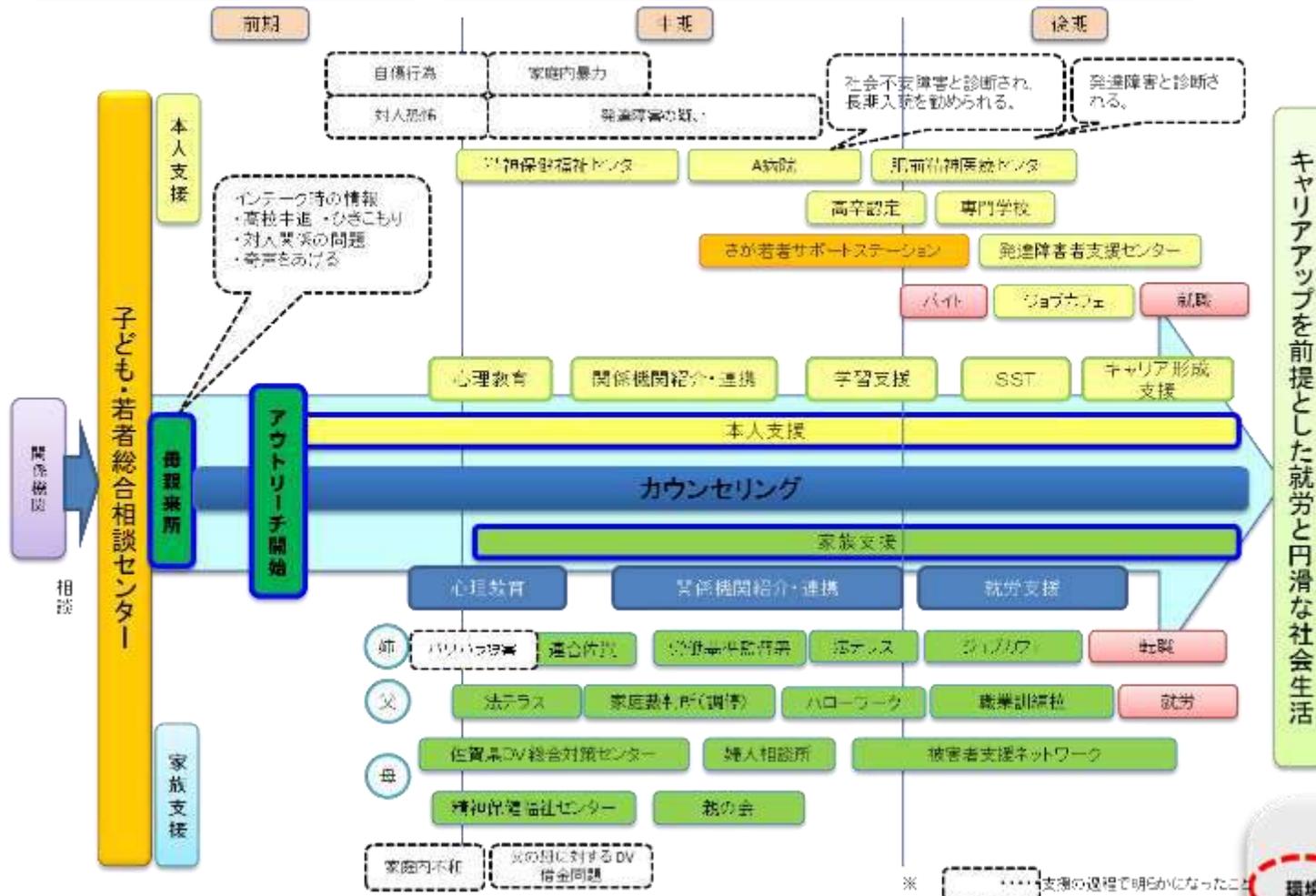




アウトリーチを用いたネットワーク活用型の支援によって多面的に支援する④

事例① 男性(24歳)
 家族構成: 父、母、姉(26歳)、本人

高校を中退し、ひきこもっている。複数の支援機関への相談歴があるが改善の兆候が見られないケース(関係機関より紹介)



複数の困難が混在する場合の家族問題の解決には特に専門機関間での綿密な連携が必須

困難の度合いによってはキャリアアップを含め複数年にわたる長期ビジョンが重要

